

■ 「中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会」からの要望書(平成24年11月15日)

自001-1

要 望 書

平成24年11月15日

中部日本横断自動車道
建設促進期成同盟会

自001-2

中部日本横断自動車道の早期完成について

「中部日本横断自動車道」は、日本列島の中央部において太平洋と日本海を直結する高速道路で、新東名高速道路の清水連絡路、中部横断自動車道及び上信越自動車道を連結することにより構成されています。

新東名の清水連絡路につきましては、清水JCT～新清水JCT間(L=4.5km)が本年4月に供用されました。

中部横断自動車道につきましては、静岡市～甲斐市間(L=7.5km)、及び佐久穂町～佐久市間(L=2.3km)が整備計画区間に、北杜市～佐久穂町間(L=3.4km)が基本計画区間に、それぞれ位置づけられており、現在までに増穂IC～双葉JCT間(L=1.6km)、佐久南IC～佐久小諸JCT間(L=8.5km)が供用されています。

また、上信越自動車道につきましては、信濃町IC～上越JCT間(L=3.8km)について、本年4月より4車線化事業に着手されました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、高速道路が、救助や緊急輸送の基軸となり「命の道」として多大な効果を発揮することが改めて認識されました。

また、「高速道路のあり方検討有識者委員会」が昨年12月に示した「中間とりまとめ」でも、『「繋げてこそネットワーク」を改めて認識し、脆弱な地域の耐災性を高め、国土を保全するネットワーク機能の早期確保』が、最優先課題としており、太平洋側と日本海側を結ぶネットワーク強化の必要性が示されています。

東海地震等による重大な災害の発生が危惧されている昨今において、中部日本横断自動車道は、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うなど、防災、住民の安全安心に不可欠な「命の道」であります。

一方、中部日本横断自動車道の実現は、静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶとともに、東名・新東名・中央・関越・北陸の5つの高速道路を有機的に連結することで、臨海工業地帯と内陸工業地帯との緊密な連携、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的観光ゾーンの形成などを促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、中部日本横断自動車道が4県に及ぼすその整備効果は計り知れないものと大きく期待を寄せ、関係県民は、等しくその早期実現を念願しているところであります。

つきましては、中部日本横断自動車道の重要性について御理解いただき、次の事項について特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

■ 「中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会」からの要望書(平成24年11月15日)

自001-3

記

- 一、 静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶ「中部日本横断自動車道」について、全線完成を早期に実現すること。
- 一、 中部横断自動車道については、基本計画区間(北杜市～佐久穂町間)の整備計画区間への格上げを早期に実現するとともに、事業中区間(新清水JCT～増穂IC間、八千穂IC(仮称)～佐久南IC間)の建設を促進すること。
特に直轄高速区間(富沢IC～六郷IC間、八千穂IC～佐久南IC間)については、早期に完成させること。
- 一、 上信越自動車道の信濃町IC～上越JCT間については、4車線化事業を早期に完成させること。
- 一、 高速自動車国道は、国の根幹的な施設であり、今後とも国及び地域の社会・経済活動の発展を支えるため、国が責任を持って整備計画9,428kmを早期に整備し、法定路線である11,520kmの整備を着実に推進すること。
- 一、 未事業化区間の整備を促進するため、早急に事業化のスキームを確立するとともに、計画段階評価など必要な手続きを速やかに進め完了すること。
- 一、 高速自動車国道をはじめとする高規格幹線道路網の整備を促進するため、「全国ミッシングリンクの整備」等について重点要求を進め、所要の建設予算を確保すること。

自001-4

中部日本横断自動車道 建設促進期成同盟会

会長 山梨県知事 横内 正明



副会長 新潟県知事 泉田 裕彦

副会長 長野県知事 阿部 守一

副会長 静岡県知事 川勝 平太

副会長 新潟県議会議員 小川 和雄

副会長 長野県議会議員 平野 成基

副会長 山梨県議会議員 浅川 力三

副会長 静岡県議会議員 小楠 和男

「中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会」からの要望書(平成24年11月15日)

自001-5

中部日本横断自動車道 早期実現へ!!

日本列島中部の高速ネットワークの拡大

中部日本横断自動車道の開通によって

- 効果 **1** >>> 高速ネットワークの形成
- 効果 **2** >>> 観光開発の促進
- 効果 **3** >>> 物流体系の再編成
- 効果 **4** >>> 産業活動の広域化
- 効果 **5** >>> 災害時緊急輸送路・避難路の確保

中部日本横断自動車道計画

中部横断自動車道 約132km | 上信越自動車道 133km

完成に向け工事進捗中

富良野IC～大滝IC区間
富良野山トンネル

六甲IC～榑野IC区間
富士川橋(下部工)

大平橋IC～佐治IC区間
大石川橋(下部工)

早期整備が望まれる

H24年度より
4車線化準備着手
秋田県道IC～中野IC区間
太田町橋付近況確認

高尾JCT～大平橋IC区間
降雪による渋滞状況(国道141号)

「霧は太平洋を見たか、霞は日本海を見たか」
中部日本横断自動車道建設促進期成同盟会

H24.11.15

■ 「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡土木協議会」からの文書 (平成25年2月13日)

自002-1

中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

供用開始されております佐久小諸ジャンクションから佐久南インターチェンジまでの間につきましては、佐久地域の観光、産業など全ての面において可能性をより一層高めるものとなり、交通渋滞の緩和や地域間移動の時間短縮など、その整備効果が発揮されているところです。

また、佐久南インターチェンジから八千穂インターチェンジ(仮称)間につきましては、平成28年度以降の供用予定で鋭意工事を進めていただいております、あわせて感謝申し上げますとともに、一日も早い供用をお願いするところです。

さて、一昨年(平成24年)の東日本大震災では、鉄道や港

自002-2

湾施設が機能しない状況が続く中で、高速道路が国や関係機関の広域的かつ機動的な対応により早期に開通し、「命の道」として多大な効果を発揮し、緊急輸送の基軸となりました。この災害を教訓として、改めて災害に強い国土づくり、特に日本海と太平洋を結ぶネットワーク強化の必要性が認識されました。

中部横断自動車道は、東海地震等による重大な災害の発生が危惧されている当地域において、広域的防災体制を強化するとともに、緊急輸送路としての役割を担うばかりでなく、沿線住民の生活に密接した「命の道」であります。

また、中部横断自動車道の実現は、静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶとともに、東名・新東名・中央・関越・北陸の5つの高速道路を

■ 「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡土木協議会」からの文書 (平成25年2月13日)

自002-3

有機的に連結することで、物流体系の再編、交流圏の拡大、広域的な観光ゾーンの形成などを促進し、沿線地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その整備効果は計り知れないものと大きく期待を寄せ、南佐久地域住民等しくその早期実現を念願しているところであります。

しかし、中部横断自動車道には基本計画区間が残されており、高速道路の効果を最大限発揮するには、ミッシングリンクの解消が急務になると考えます。

そこで、中部横断自動車道の円滑な事業の推進と早期完成に向けて、下記事項につきまして、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

自002-4

記

1. 基本計画区間である（仮称）八千穂インターチェンジ ～ 山梨県（仮称）長坂ジャンクション間について、早期に整備計画へ格上げし、ネットワーク化が図られるよう、お力添えをお願い致します。
2. 佐久南インターチェンジ ～（仮称）八千穂インターチェンジ間について、早期完成に向け、特段の予算措置が講じられるよう、お力添えをお願い致します。

■ 「長野県南佐久郡町村会、長野県南佐久郡土木協議会」からの文書

(平成25年2月13日)

自002-5

長野県南佐久郡町村会長

藤原忠彦

長野県川上村長

長野県南佐久郡土木協議会長

佐々木定男

長野県佐久穂町長

提言町村

町村名

町村長名

長野県小海町

新井寿一

長野県佐久穂町

佐々木定男

長野県川上村

藤原忠彦

長野県南牧村

菊池幸彦

長野県南相木村

菊池毅彦

長野県北相木村

井出玄明

■「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望

(平成25年3月1日)

自003-1

平成24年度

中部横断自動車道の 早期実現に関する緊急要望

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

自003-2

中部横断自動車道の早期実現について

山梨県内の高速道路の整備促進につきましては、平素から格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

道路は、県民の社会経済活動を支える、欠かすことのできない最も基礎的な社会資本であります。

なかでも、高速道路は、活動圏域の拡大、地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活発化など、地域の自立的な発展を支える根幹的な社会資本として、地域社会の発展に大きく貢献するものであります。

更には、災害時の緊急輸送や、医療施設への救急搬送にも、大きな効果を発揮する「命の道」として県民の期待は大きいものがあります。

中部横断自動車道は、太平洋と日本海を結び、新たな高速道路網を形成することにより、静岡・山梨・長野各県の交流・連携を活発化し、沿線地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に寄与するものであり、県内においては、中部横断沿線地域活性化協議会を中心に、沿線地域の活性化を推進する活動が行われており、このような地域の努力が実を結ぶためにも、早期の全線開通が望まれております。

加えまして、先般発生した東日本大震災から得られた教訓を活かして、道路のリダンダンシーを確保するためにも、中部横断自動車道の整備は極めて重要であります。

つきましては、中部横断自動車道の早期全線開通を図るため、次の事項について特段の御配慮を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望

(平成25年3月1日)

自003-3

要望事項

- (1) 中部横断自動車道の北杜市から佐久穂町間の基本計画区間について、早期に整備計画区間に格上げすること。
- (2) 中部横断自動車道の増穂以南については、平成29年度までの全線開通を図るとともに、観光・産業活動の広域化等に寄与する地域活性化インターチェンジの新設を図ること。
- (3) 高速自動車国道をはじめとする高規格幹線道路網等の整備を促進するため、所要の建設予算を確保すること。

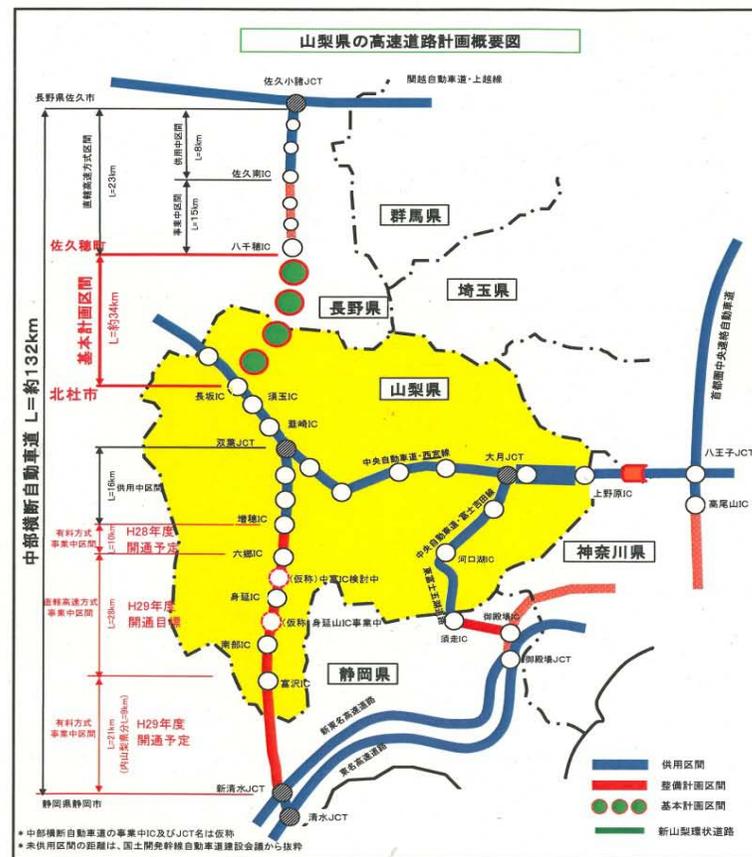
平成25年 3月 1日

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

会長 山梨県知事 横内 正 明



自003-4



● 中部横断自動車道の事業中IC及びJCT名は仮称
 ● 未供用区間の距離は、国土開発幹線自動車道建設会議から採得

■ 「川上村」からの要望書(平成25年3月13日)

2013年 3月11日 11時42分

NO. 0167 自004-1

平成 25 年 3 月 13 日

様

中部横断自動車道の早期 実現に関する要望書

長野県 川上村

2013年 3月11日 11時42分

NO. 016 自004-2

中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

中部横断自動車道の実現は、静岡・山梨・長野・新潟の4県を結ぶとともに、東名・新東名・中央・関越・北陸の5つの高速道路を連結することで、地域の産業・経済・観光・文化等に大きな活力を与えるなど、その整備効果に住民は期待を寄せ、早期実現を念願しているところで

とくに、地域の医療の拠点である佐久総合病院への道路は現在国道141号線だけであり、医療過疎地域の本村にとって中部横断自動車道はまさに救急救命道路であります。

また、本村の基幹産業である高原野菜の流通や村民にとって通勤圏の拡大など、重要な生活道路であり、大きな期待と1日も早い完成が切望されております。

■ 「川上村」からの要望書(平成25年3月13日)

2013年 3月11日 11時42分

NO.0167 自004-3

つきましては、中部横断自動車道の円滑な事業の推進と早期完成に向けて、下記事項につきまして、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

2013年 3月11日 11時43分

NO.016 自004-4

記

1. 基本計画区間である（仮称）八千穂インターチェンジ～山梨県（仮称）長坂ジャンクション間について、早期に整備計画へ格上げし、着工していただけるよう、お願い致します。
2. 佐久南インターチェンジ～（仮称）八千穂インターチェンジ間について、早期完成に向け、特段の予算措置が講じられるよう、お願い致します。

長野県南佐久郡川上村

川上村長 藤原 忠彦

川上村議会議長 由井 美成

■「北杜市」からの提言(平成25年5月1日)

自005-1

中部横断自動車道(長坂～八千穂) の早期実現に関する緊急提言

山梨県北杜市

自005-2

中部横断自動車道(長坂～八千穂)の早期実現について

平素、中部横断自動車道の建設促進につきましては、特段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

道路は、社会経済活動を支える最も基礎的な社会資本であり、中でも新たな高速道路網を形成する中部横断自動車道は、日本の大幹線として、また災害時の緊急輸送路や医療施設への救急搬送など、「命の道」として重要な機能を果たすとともに、地域間の連携の強化、物流の効率化による経済活動の活性化など、地域社会の発展に大きく貢献するものであります。

現在、中部横断自動車道(長坂～八千穂)については、計画段階評価の試行箇所として審議されており、その中で示された山梨県内区間のA、B、2つのルート案については、今後、ワーキンググループの検討を経てとりまとめられるものと期待しています。

北杜市といたしましては、ルート検討にあたり次の事項にご配慮頂くとともに、早期整備着手を要望いたします。

1 自然環境・景観の保全

計画沿線地域は、貴重な動植物の生息地であるとともに、景観に優れたエリアであるため、環境保全や景観に配慮すること。

2 沿線地域・観光地へのアクセスの確保

本市の観光拠点の一つである清里地域へのアクセスの強化と、長坂～清里間の沿線地域へのアクセスを容易にするためインターチェンジを設置すること。

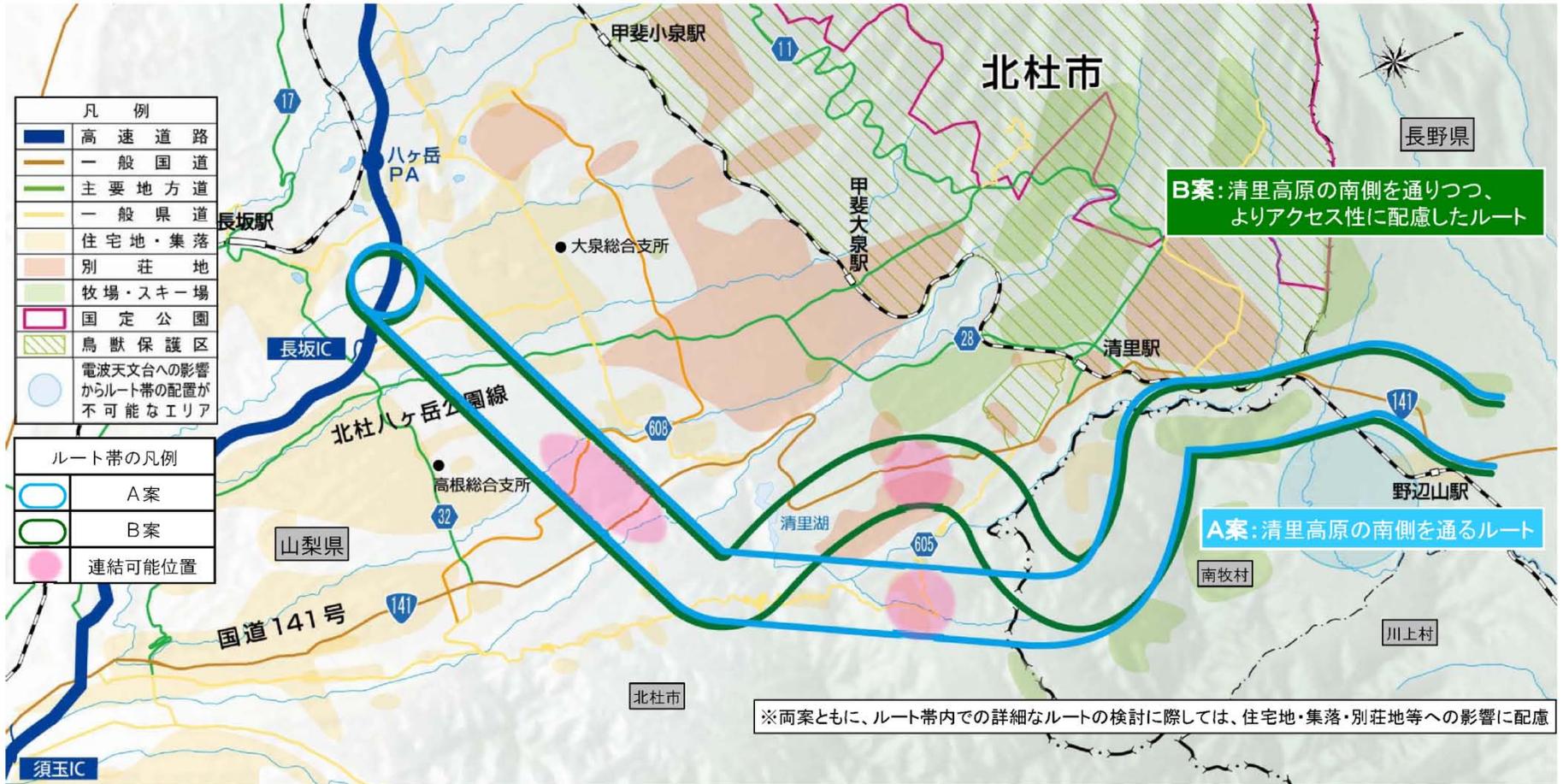
以上の点を考慮すると、B案が優れていると考えます。

平成25年5月1日

山梨県北杜市長 白倉 政司

■「北杜市」からの提言(平成25年5月1日)

自005-3



■「峡北広域行政事務組合消防本部」からの要望(平成25年5月17日)

自006

中部横断自動車道（長坂～八千穂）に関する要望

中部横断自動車道（長坂～八千穂）の計画の検討にあたっては、次の事項にご配慮願います。

- 1 インターチェンジにヘリポートの建設。
(消防用活用ヘリの難着陸場ができれば、救急搬送に時間短縮ができる)
- 2 インターチェンジに貯水槽又は消火栓の設置及び消火薬剤等の排水処理施設建設。
(高速道路上は水利に乏しいため、車両火災及び法面火災等にタンク車の給水場所が必要。また、付近の火災にも対応できる)
- 3 トンネル内でも無線交信が可能な状態にする。
(消防活動時携帯電話、無線交信が必要なため)
- 4 緊急開口部の設置、路側帯等の確保、高台となる場所等の側道の整備。
(インターチェンジの場所にもよるが、適当な位置に緊急開口部を設け緊急車両の出入りに活用する。また、高架橋等の高台は避難通路を設ける)
- 5 高速道路上の災害現場では、高速隊及びハイウェイサービス等の交通整理が必要であり、災害発生直後の情報提供とともに電光掲示板等の活用も必要。
- 6 その他については、高速警察隊、各関係機関等で協議する。

以上

平成 25 年 5 月 17 日

国土交通省関東地方整備局
甲府河川国道事務所
所長 吉岡大蔵 様

峡北広域行政事務組合消防本部



■「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望書

(平成25年5月27日)

自007-1

国土交通大臣
太田 昭宏 様

要 望 書

中部横断自動車道(長坂～八千穂)の整備について

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

自007-2

中部横断自動車道(長坂～八千穂)の整備について

中部横断自動車道は、太平洋と日本海を結び、新たな高速道路網を形成することにより、静岡・山梨・長野・新潟各県の交流・連携を活発化し、沿線地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に寄与するものであります。

特に、長坂～八千穂間につきましては、本県において切迫性が指摘されている東海地震等が発生した際に、本県と長野県、更には北関東・東北地方を結ぶ救援路となり、八十五万県民の生命を守る「命の道」として必要不可欠の道路であり、一刻も早い全線開通を切望しているところであります。

しかしながら、平成9年の基本計画策定から16年が経過した今も、依然として工事着手が見えておらず、現在、国が実施している計画段階評価の中で、山梨県内のルートに関して「清里高原の南側を通るA案」と「清里高原の南側を通りつつ、よりアクセス性に配慮したB案」の二つの案が検討されているところであります。

つきましては、中部横断自動車道の早期整備を切望する地方の声を結集し、次の事項を要望します。

- 一、計画沿線地域には豊かな自然や美しい景観があるため、周辺環境や景観への負荷が少ない高速道路となるよう、十分な配慮を行うこと。
- 一、高速道路利用者の利便性の向上と地域の活性化、物流の効率化等のためにアクセス性に配慮すること。
- 一、計画段階評価で検討されている山梨県内のルートについては「B案」とすること。
- 一、山梨・長野両県にまたがる長坂～八千穂間については、一体としてルート案を公表するとともに、早期に整備計画区間に格上げすること。

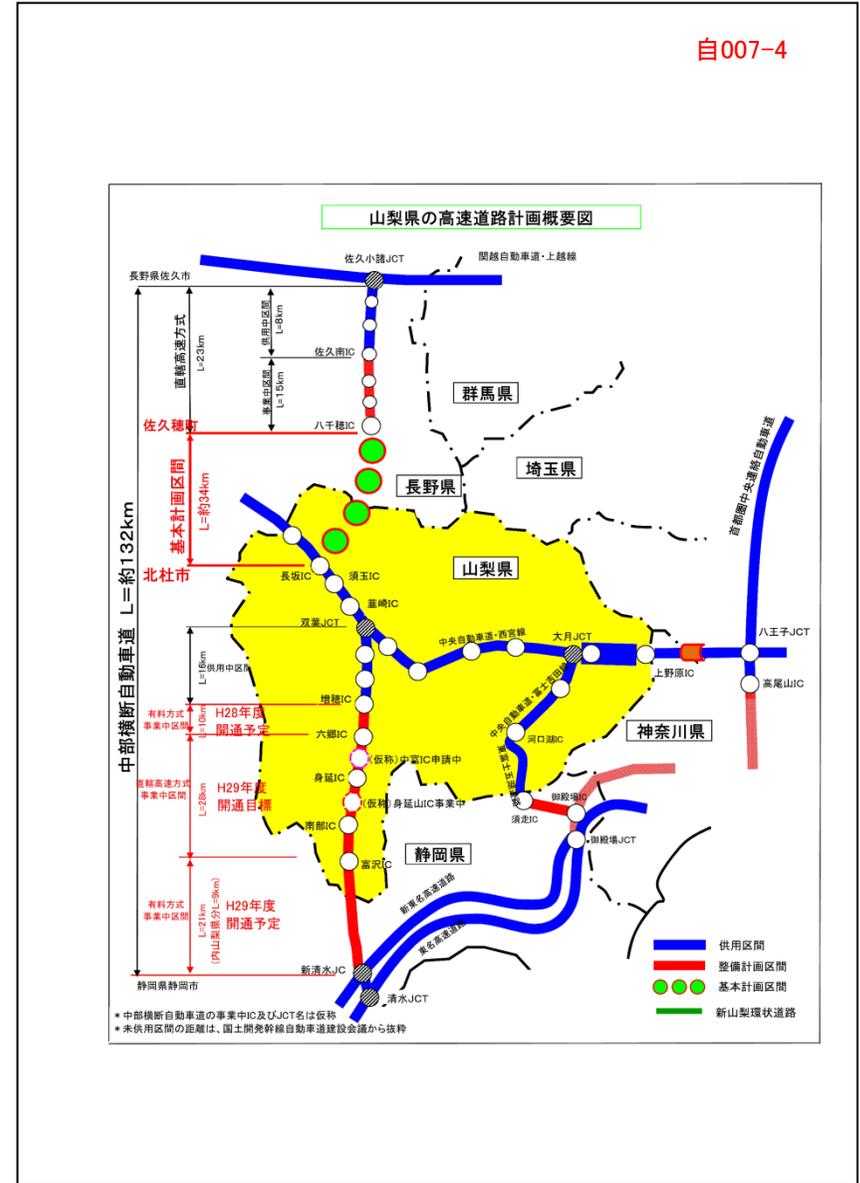
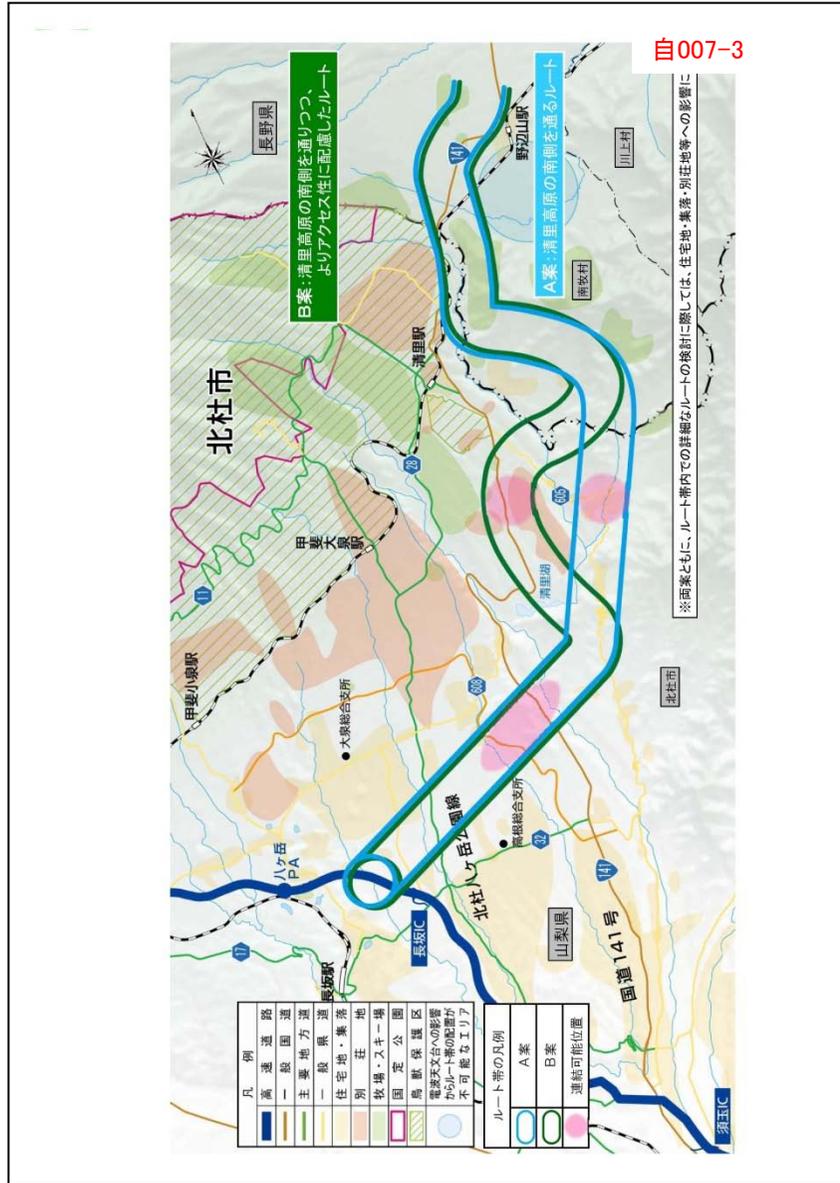
平成25年5月27日

山梨県高速道路整備促進期成同盟会

会長 山梨県知事 横内 正明

「山梨県高速道路整備促進期成同盟会」からの要望書

(平成25年5月27日)



■「長野県・山梨県中部横断自動車道建設促進連合会」からの提言書 (平成25年5月27日)

自008-1

国土交通大臣

太田 昭宏 様

提 言 書

長野県・山梨県
中部横断自動車道建設促進連合会

自008-2

中部横断自動車道の整備につきましては、特段のご高配を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

中部横断自動車道は、静岡県を起点とし、山梨県甲斐市を經由し、北杜市から長野県佐久市に至る延長約132kmの高速道路です。

本自動車道は、新東名高速道路、中央自動車道、上信越道を連絡することにより、臨海部と内陸部の連携を深め、日本経済の競争力強化、広域観光圏の形成等、図られる効果は沿線地域に止まらず長野県・山梨県両県に広く波及すると期待されています。

また、昨今の大規模災害の発生や、既存道路の大規模修繕等による通行止めが予想されるなか、高速道路ネットワークによる多重性の確保が、国民の安心な生活を確保するうえで大変重要となっております。高速道路のミッシングリンク解消は喫緊の課題です。

本自動車道で唯一基本計画区間として残っている、長坂ジャンクション（仮称）から八千穂インターチェンジ（仮称）間については、計画段階評価の着手から2年以上が経過していますが、関東地方小委員会の中間とりまとめでは、「課題解決には高速道路による整備が有効」とされながら、未だに事業化されていない状況です。

他の整備区間においては、供用予定時期が示されつつあるなか、全線の早期開通へ向けて、この区間の早期事業化は地域の悲願です。

「長野県・山梨県中部横断自動車道建設促進連合会」からの提言書 (平成25年5月27日)

自008-3

つきましては、本自動車道の重要性をご理解いただき、次の事項
につきまして実現されるよう提言します。

記

- 1 基本計画区間である長坂ジャンクション（仮称）から八千穂インターチェンジ（仮称）間については、一体としてルート案を公表するとともに、整備計画への格上げを早期に実現し、ミッシングリンクの解消を図ること。
- 2 整備計画区間である、八千穂インターチェンジ（仮称）から佐久南インターチェンジ間、及び、増穂インターチェンジから新清水ジャンクション間について、早期供用に向け整備を着実に進めるとともに、必要な予算の確保を図ること。

平成25年5月27日

長野県・山梨県中部横断自動車道建設促進連合会

会長 長野県知事 阿部 守一

副会長 山梨県知事 横内 正明

自008-4

長野県・山梨県中部横断自動車道建設促進連合会

会長	長野県知事	阿部 守一
副会長	山梨県知事	横内 正明
常任理事	長野県中部横断自動車道建設促進期成同盟会	会長 柳田 清二（佐久市長）
		副会長 柳田 剛彦（小諸市長）
		副会長 佐々木 定男（佐久穂町長）
		副会長 藤原 忠彦（川上村長）
	中部横断自動車道整備促進山梨県峡北地域連絡協議会	会長 白倉 政司（北杜市長）
		副会長 横内 公明（韭崎市長）
	長野県建設部長	北村 勉
	山梨県県土整備部長	上田 仁
理事	小海町長	新井 寿一
	南牧村長	菊池 幸彦
	南相木村長	菊池 毅彦
	北相木村長	井出 玄明
	軽井沢町長	藤巻 進
	御代田町長	茂木 祐司
	立科町長	小宮山 和幸
	甲斐市長	保坂 武
	南佐久郡土木協議会長	佐々木 定男（佐久穂町長）

■「北杜市」からの意見書(平成25年5月28日)

自009

北杜道河第 341 号
平成 25 年 5 月 28 日

国土交通省関東地方整備局
局長 森北 佳昭 様

山梨県北杜市長 白倉 政司 

中部横断自動車道(長坂～八千穂)の整備についての意見書

中部横断自動車道の長坂～八千穂間は、その整備効果による地域の発展に、大きな期待が寄せられおり、早期の実現を望むものであります。

現在、本区間について計画段階評価の中で山梨県内のルート帯検討が行われているところでありますが、本市では、市民の声を幅広く聞き、中部横断自動車道を踏まえたまちづくりを推し進めるための市民協働で検討する体制を整え、中部横断自動車道の円滑な整備を推し進めてまいります。

つきましては、計画段階評価にて提示されているルート帯案などについて、本市の考えを申し上げます。

- 1 中部横断自動車道(長坂～八千穂)の早期整備着手を要望します。
- 2 ルート帯案については、計画段階評価の審議の中で提示されたルート帯2案のうち、沿線地域・観光地へのアクセスが優れているB案を推奨します。併せて、自然環境・景観に特段の配慮をした道路構造での整備を要望します。
- 3 地域・観光地へのアクセスを確保するため、清里地区付近を始めたする複数箇所へのインターチェンジの設置を要望します。
- 4 中部横断自動車道の整備を踏まえたまちづくりビジョン検討の際には、国による十分な支援を要望します。

「山梨県」からの意見書(平成25年5月29日)

自010-1

道整第472号
平成25年5月29日

国土交通省関東地方整備局
局長 森北 佳昭 殿

山梨県知事 横内 正明



中部横断自動車道(長坂～八千穂)の整備についての意見書

中部横断自動車道は、太平洋と日本海を結び、新たな高速道路網を形成することにより、静岡・山梨・長野・新潟各県の交流・連携を活発化し、沿線地域の産業、経済、観光、文化等の振興・発展に寄与するものであります。

特に、長坂～八千穂間につきましては、本県において切迫性が指摘されている東海地震等が発生した際に、本県と長野県、更には北関東・東北地方を結ぶ救援路となり、八十五万県民の生命を守る「命の道」として必要不可欠の道路であり、一刻も早い全線開通を切望しているところであります。

しかしながら、平成9年の基本計画策定から16年が経過した今も、依然として工事着手が見えておらず、現在、国が実施している計画段階評価の中で、山梨県内のルートに関して「清里高原の南側を通るA案」と「清里高原の南側を通りつつ、よりアクセス性に配慮したB案」の二つの案が提示されているところであります。

つきましては、対応方針の決定に際して、次の事項について配慮をお願いします。

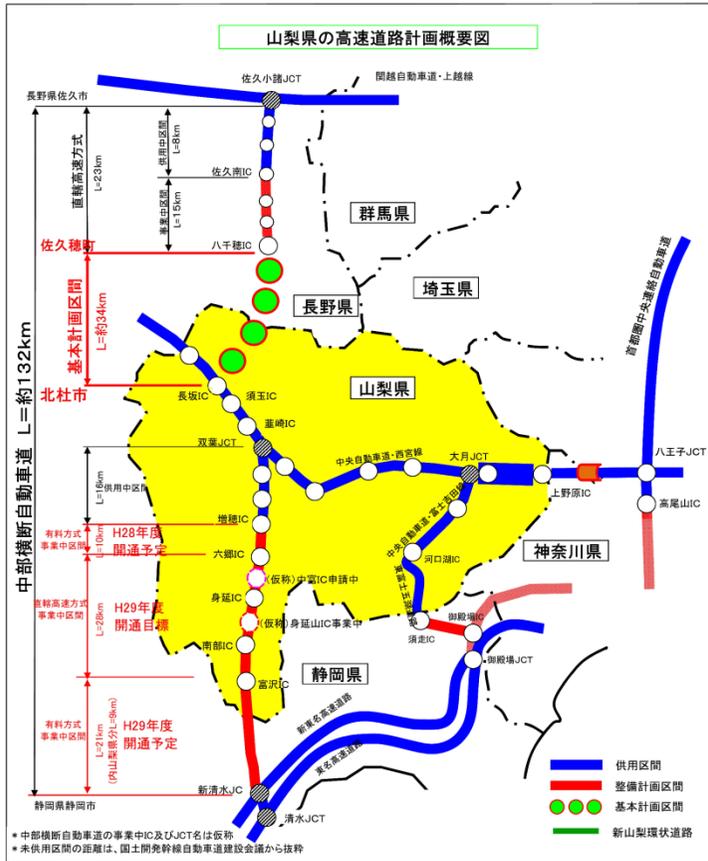
- ・ 計画沿線地域の豊かな自然や美しい景観へ与える影響について、今後行われる環境影響評価で十分な配慮を図るとともに、県民への情報提供を確実に行うこと。
- ・ 高速道路の利便性向上、地域の活性化、物流の効率化等のためにインターチェンジの設置について積極的に取り組むとともに、位置決定においては周辺整備計画との調整を図る必要があるため早期に協議すること。
- ・ 計画段階評価で検討されている山梨県内のルートについては、本県の代表的な観光地である清里地域へのアクセスが優れる「B案」とすること。
- ・ 山梨・長野両県にまたがる長坂～八千穂間については、一体的な整備によりネットワーク機能が発揮されることから、全区間に渡り同時にルート案を公表するとともに、早期に整備計画区間に格上げすること。

自010-2



「山梨県」からの意見書(平成25年5月29日)

自010-3



「北杜市」からの文書(平成25年6月12日)

